

Trait d'union

トレデュニオン

No. **69**
2022-4



- マスターコース受講者の声 2-9
- SFC 西日本支部補習講座
技が光る靴製造現場を訪ねる 10-13
- SFC 東日本支部補習講座
ワンランク上のシューケアテクニック 14-19
- 事務局便り 20



マスターコース受講者の声

2022年2月4日(金)、コロナ禍のため1年延期され、3年に渡り開講された「シューフィッター養成講座 第2回マスターコース」が修了いたしました。

2019年、29年ぶりに開講されたマスターコースでしたが、コロナ禍により講座継続の危機に瀕し、カリキュラム、講師陣、スケジュールを大幅に見直さなくてはいけなくなりました。

その間も受講生28名は皆様に支え合い、たいへんな3年間を共に歩み、深い絆で結ばれ、シューフィッシングをさらに深めるために進み続けました。

この日を迎えることができたのは、受講生皆様のご理解、ご協力があったからこそです。

この場をお借りして28名の皆様に深くお礼申し上げます。

現在の11名に加え、シューフィッター3,532人(2022年3月1日現在)の頂点に立つ、新しい28名のマスター・オブ・シューフィッシングをご紹介します！

(掲載：氏名五十音順)





アオキ靴店

青木 陽忠

今回、2年間のスクーリングで「シューフィッティング」「オーダー靴」「足の機能解剖学」の学びを通して、足と靴が人間にとっていかに大切で、その2つを合わせる事がいかに難しいかを実感しました。

そして足と靴に関する知識を網羅し、どんな足にも対応できるシューフィッターの役割は大きいと感じました。

理想のシューフィッティングを日々研鑽し、足と靴に悩んでいる人から必要とされる靴屋を目指します。

コロナ禍で大変な中、安全にスクーリングを開催していただいたFHA、講師陣、そして2年間共に勉強した受講者(仲間)たちに感謝しております。



ブルネロ クチネリ
ジャパン株式会社

井戸 明美

マスター受講でお世話になった皆様、本当にありがとうございました。

私はアメリカのシューズブランド、コールハーン勤務時にプライマリーを取得、バーバリー勤務時にバチェラー取得、その後ジバンシィなどいくつかのブランドで仕事をし、現在はブルネロクチネリに勤務しています。

ラグジュアリーブランドのシューズ販売ではシューフィッティングは重要視されておらず、靴を販売する上で研修もないブランドがほとんどです。そしてお客様自身も靴をファッションと捉え、履き心地をあまり求めません。

今後はそこにシューフィッティングを取り入れていきたい。友人やお客様の「綺麗で買ったけど痛くて履けない靴がいっぱいある」、そんな声を少しでも減らしたい。

大きな野望を持って、小さな事からこつこつと引き続き勉強をしていきます。



株式会社
マイスター靴工房
KAJIYA

猪瀬 多恵子

この度、マスターコースの受講が無事に修了しました、株式会社マイスター靴工房KAJIYAの猪瀬多恵子と申します。

プライマリーコースから始まったスクーリングでは自分の知らない知識を得ることができ、学びの多い5年間でした。無事マスターコースまで受講できましたのも、事務局をはじめ関係者の皆様のおかげだと思います。誠にありがとうございました。

今後は義肢装具士、マスターオブシューフィッティングとして皆様の健康を足元から支えていければと思っております。まだまだ至らぬ点もあるとは思いますが、精進してまいりますので、よろしく願いいたします。



株式会社ロカシュー
代表取締役
エスペランサ靴学院
学院長

大山 一哲

まずは30年ぶり第2回マスターコース企画設営に際しFHA講師陣、事務局、関係各位の皆様感謝申し上げます。

そして共に汗を流し、共に学んだ同期の皆様にも深く感謝申し上げます!!!

この3年間コロナの影響もあり、本当に色んなことがありました。

良かったことも、良くなかったことも、今後の糧とし、マスターの名に恥じぬよう、より一層足と靴と健康に寄与するため、精進していく所存です。

今後とも何卒宜しく願い致します!!!



株式会社
サンドリーム
ファクトリー

片桐 繁春

現在、シューマート長野東和田店に所属しております。

マスターシューフィッターとしてスタートラインに立つことが叶い、講師の先生、関係各所の皆様には感謝の念に堪えません。

現在の時点は、ようやくスタートラインに立たせていただけたと認識しております。これから活動する中で多くのお客様との関わりを持つことで、関連することに興味を持ち知識を深めるよう努めます。

また、マスターシューフィッターとしての責任を自覚し、お客様や関係する方々の期待に添えるよう努めてまいります。



株式会社コロンビア
スポーツウェア
ジャパン

蒲原 慶子

足と靴の悩みは尽きず、お客様へ本当に正しく靴選び&パッキングができていないか不安があったので思い切って参加しました。

靴業界って職人気質で、調整の良し悪しが個人独自の技術に委ねられることが多く、才能のない自分はどうすれば良いのかと思っていました。結果的に、エビデンスのあるフィッティングとパッキング方法、足と脚と歩行についてどのように学べば良いかを知れた(体得するのはまだ先)のが本当にありがたかったです。今回手探りで進行してくださった原田さん、お忙しい中真剣に教えてくださった先生方に感謝申し上げます。



有限会社
かんのシューズ

管野 博久

途中コロナの影響もあり様々な困難に遭遇しましたがマスターコースを無事に受講できたことは意義深く、こまで関わっていただいた皆様には厚く御礼を申し上げます。

スクーリングはマスターオブシューフィッティングになるためのメニューが組まれていましたが、総論として靴の快適性は歩きやすさに付随し、故にマスターオブシューフィッティングとは止まった足に靴を合わせるのではなく動いている足に靴を合わせられるということです。今後は地方のシューフィッターの在り方、スポーツ分野で活躍できるシューフィッターなど経験もフェードバックしながら、自身の成長も図って参りたいと思います。



株式会社
アルプスシューズ

小林 徹司

足かけ3年の講座は終了したがシューフィッターとして本当の学びはこれから始まり一生続くというのが実感である。約30年振り2回目の開設で各カリキュラム内容も高度、難解であった。十分に理解できないところも多々あるが、しかし全ての講師の方々にはそれぞれの分野での確かな道筋をお示し頂いた。

顧客へのより良いシューフィッティングの為さまざまな課題が浮かび上がった時、この3年の講座内容に立ち返る事で、気づきとヒントを得る事ができると確信している。またご縁あった同期が皆、それぞれの分野の第一線で活躍するスペシャリストなのでとても心強い。マスターの名に恥じぬ様今後ともお互い切磋琢磨して行きましょう。末永く宜しくお願い致します。



足・靴から
健康を提案する店
コンドル
(くつ履く物館)

阪田 茂宏

今回、マスターコースは途中延期もあり約3年間となりました。大変な状況の中、講師の先生方、FHA事務局、関わっていただきました皆様方、受講生の皆さん、そして最後までご尽力いただきました原田さんには大変感謝申し上げます。

これからが再スタート! 新型コロナウイルス感染拡大、他国への侵攻と想像を遙かに超える予期せぬ事が起こる世の中となっています。靴に携わる仕事を後悔のない様にこれからも毎日を大切に、そして靴の大切さを今後も伝えていきたいと考えます。靴を通して世界平和! 必要とされる皆さんと喜びを共有できたらと考えます。マスターコースで信頼関係を築けた皆様とも今後一緒に活動できたらと考えます。



ヴィクトリア
御茶ノ水本店

佐々木 真一

この度、マスター・オブ・シューフィッティングに合格致しました、ヴィクトリア御茶ノ水本店の佐々木真一と申します。今回合格する事ができたのは、各講師陣の熱心なご指導。より充実した講習会の取り組みの為に、獅子奮迅した事務局の皆様。共に支えあって学んだマスターコースの仲間達の存在があってこそ、達成する事ができました。

この場を借りて、改めて感謝の言葉を述べたいと思います。講師の先生方、事務局の皆様、同期の皆様、本当に有り難うございました。

今後はノブレス・オブリージュの心構えで、今回学んだ事を一人でも多くの方にお伝えできるように、活動していきたいと思ひます。



シューマート
エルサあづみ野
ホタカ支店

佐野 生子

第1回目のマスターの方々とセミナー等で一緒させていただいた時、足と靴の評価の仕方やフィッティングの仕方が全く私とは異なっていてとても驚かされました。理論的で説得力がありました。どうしてマスターの方々のフィッティングの考え方と私たちとこんなに異なるのでしょうか。

「マスターになってからが大変ですよ」とマスターの方々はおっしゃいますし、今でもずっと勉強を重ねていらっしゃいます。とても尊敬しております。

お客様が来店され、笑顔で帰って行かれたら、それが私の最高の幸せ。そのために私のできることを増やしたい。フィッティングのスキルを高めたいのはもちろんですが、あらためて、良い靴の見極める力を身に付け、お客様に自信を持ってお勧めできる靴だけを厳選したいと強く思います。「ラスト」を勉強したことが良い刺激になりました。

まだまだ未熟者です。マスターの先輩方のお店のように、お客様の足と心に寄り添ったオンリーワンの街の靴屋さんになりたいと思うのです。



株式会社卑弥呼
大丸梅田店

澤田 かおる

この度マスターコースにチャレンジさせて頂き、また新たな世界が広がりました。

事務局、講師の皆様、関係各位の皆様のご尽力には心から感謝申し上げます。

勉強を通して素晴らしい仲間にも恵まれた事も一生の宝物です。

これからも靴を選ぶそれぞれの方の生活に寄り添い、靴を通して皆様のがらりと輝く毎日になるよう、これからの人生の旅路を心地よい靴で歩んで行けるよう靴選びのお手伝いをさせて頂こうと思ひます。



株式会社
ウィナーズ
トレーディング

島村 憲央

「バラ(分解)して、取り替えて、元に戻す。これが修理の定義」という持論をもって日々、靴を直すお店に勤務しております。

通常「同じ素材、同じ高さ、同じ色、同じ強度...」に仕上げる事となりますが、「違う素材、違う高さ、違う色、違う強度...」に仕上げざるを得ない状況があります。

そこに新たな提案を加える事ができるのが、「(靴の知識はもとより)足の知識、歩行の知識」です。履き心地・歩き心地を損ねない、修理の定義を大きく超えた、縦横無尽な改良修理を行う事ができれば、お客様の満足も長期間持続させる事が可能だと知りました。

今回のマスターコース受講は、それらの知識をより広く深める大変良い機会となりました。



株式会社チヨダ

外川 秀俊

プライマリーコースを受講した時に、バチェラーやマスターを学び色々な事を知ればご来店いただいたお客様のお役に立てる、お手伝いできるが増えると思いい、マスターコースを受講いたしました。

知識とそれに伴う技術は日々の復習なくして得る事はできないと学習をしながら常々感じる事でありました。

今後、私自身ができること、行っていこうと思うことはお客様に寄り添いお手伝いすることは変わらず、多くのお客様に私が学んできた知識や技術を弊社商品や従業員の教育等で活用して、全国の弊社をご利用して頂いているお客様、また弊社をご利用する新しいお客様にお役に立ちたいと思っております。

1人でも多くのお客様、弊社従業員のお役に立てるよう今後も日々の努力を積み重ねていきたいと思っております。



シューズショップ
タケダ
藍住店

武田 実

シューフィッターでの仕事はお客様から頼りにされる事でさらに励みにもなり、もっと喜んでもらいたいという思いでマスターコースを受講させて頂きました。

今回マスターコース受講させて頂き沢山の仲間と出会えたことに感謝し、あらためて足・履きもの・フィッティングという事を色々な方面から見ることもできました。

お客様と共に選んだ靴・調整した靴を履いて頂けることで笑顔が増える良い仕事だと確信しており、マスターを終了した今からがスタートの気持ちでシューフィッターだからできる事を見直し追求していきたいと思っております。



株式会社
ジェイアール東海
高島屋

野村 美香

日々現場でお客様と接していて、さらに靴を知り足の知識を深めることによって快適な靴選びのお手伝いはできないかと思いい受講しました。

毎回、続けていけるのかと不安でしたが、2年間(コロナ禍で3年)一緒に学んできた仲間を支えられてここまでたどり着きました。

講師の先生方には講義以外にも時間を割いて教えていただきました。

事務局の皆様のサポートも力になりました。

靴作りの大変さを改めて知り、絶えず動く足を合わせることはとても難しいものです。

講座で得た知識や技術を惜しみなく実践し、快適に履いていただける靴を提供していきます。



シューズショップ
HASHIMOTO

橋本 伸也

名古屋で小さな靴店をしていますシューズショップ
HASHIMOTOの橋本伸也と申します。

今回、最後まで受講することができましたのは、コロナ
禍にもかかわらず素晴らしい環境と機会を用意してくだ
さった事務局、ご自分の経験や知識を惜しみなく教えて
くださった先生方、どんな時も快くサポートして下さった
受講生の仲間存在あってこそだと思っております。本
当にありがとうございました。

今後はマスターの名前を汚さないように、今まで以上
にお客様に対して満足頂けるサービスを提供できる存在
になっていければと思っております。まだまだ力不足で
はありますが、精一杯がんばってまいりますので、よろし
くお願い致します。



リエーヴル
(福屋広島駅前店内)

花本 義文

まだまだ大変な世の中で上京がままならない時もありま
したが、頼もしい同期にも恵まれ、おかげさまで無事にマス
ターのスクーリングを終えることができました。

マスターコースでは、靴型～試作靴製作・機能解剖学な
どこれまで以上にいろいろなことを学ぶことができ、
シューフィッティングにおいては、「適正な靴合わせを行
うことの本当の重要な意味」を知ることができました。

新たなスタートで、まだ名前がいただけただばかりです。
マスターとしてちゃんと皆様の期待にお応えするため、これ
からも勉強を続け精進してまいります。より多くの方のお
役に立ち、我々シューフィッターの活動が広く認知されて
いきますよう、みなさんと一緒に頑張っていきたいです。

今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。



株式会社そごう西武
そごう横浜店
マイスター

林 美樹

マスターコースで一番勉強になったのは、機能解剖学です。
またインソール調整に関しては、今までは静止した足の状態の補正
や、病気に対するアプローチが主でしたが、今回は歩きを見たり
関節の可動域をチェックする事によって、問題の原因を探りそこに
アプローチする、と言う手法を学びました。

今までも多少は勉強していた内容でしたが、今回はかなり深掘りし
た内容でしたので正に目から鱗でした。

また自分の足に合わせた靴作りでは、ラスト(靴型)から作成したの
でラストの重要性を再確認できました。

今後はマスターコースで勉強した内容を使ってお客さまを接客し、ま
た周りの靴販売メンバーに知識・技術を還元していくつもりです。
もちろんこれで終わりではなく、マスターの名に恥じないよう更なる
研鑽を積んでいきたいです。

また全国からマスターを目指して来られたレベルの高い方々と知り
合えたことも僕の財産になりました。

3年間に渡り指導していただいた講師の先生方と、我々に寄り添っ
て伴走してくれたFHAのスタッフの方には本当に感謝致します。
ありがとうございました。



快適な靴と足
WOHLTAT
(ヴォールタート)
足・爪
お手入れ専門店・ポド

藤井 恵

「足のトラブルは90%が靴が原因」と言われる程、
シューフィッティングはとても大切です。日頃フットケアに
ご来店のお客様のお悩みは様々です。フットケアで改
善はするものの、そこには正しい靴の履き方、靴選び、
運動、歩行などお客様に合わせたアドバイスが必要で
す。トラブルが起こる前の予防ケアとしても、シューフィ
ッターの役割はとても大きいと思います。

マスターコースで学んだ知識と技術、これまでの多くの
経験を生かし、お客様の足と心に合わせた靴選びと
フットケアを提供し、多くの方の「快適な靴と足」をサ
ポートしていきたいと思っております。これからもどうぞよろしく
お願いいたします。



SHOES STAGE

藤川 翔太

マスターを受講したことで靴作りの難しさ、足の機能が複雑にできていて靴の調整の対応も様々で主観的なことも多く、常に勉強して追求しないとイケないと感じました。

私のお店では、子供を中心に計測を行っています。今回、マスターになるにあたって、子供から大人の方まで幅広く喜んでもらえるように、マスターの知識を現場で活かして経験を積み重ねていきたいです。



株式会社楽歩堂
京阪百貨店守口店

前川 康輝

この度はマスターコースを受講できたことを心から感謝いたします。私は靴の販売を始めてから約22年。このマスターコースのおかげでまだまだ勉強することが沢山あると実感させていただきました。

機能解剖学や靴木型製作などにおいてもです。そして、私自身は外反母趾で悩みも多々あります。外反母趾に特化した研究を行い外反母趾のスペシャリストになれるように頑張りたいと思います。少しでもお客様に喜んでいただけるように。そして、靴のプロフェッショナルとしてシューフィッターのことを数多くの人に知っていただけるように努力したいと思います。



Mightguy Lab

前田 誠

私は底の見えない足と靴の知識についてより深く様々な視点からの学びを求めてマスターシューフィッティングにチャレンジしました。

実際受講してみて靴業界歴20年になっても新しい発見があり、そして各靴業界のプロフェッショナルである仲間達からも学ぶ事が多く、たくさんの貴重な経験ができました。昨今は急激なオンライン社会への移行によって靴小売店の需要低下が深刻になっている。今後はリアル店舗の存続危機をシューフィッティングによって店舗が生きる付加価値、必要性を上げて活動をしていきたい。今回コロナ禍の影響もあり3年かかりましたが足と靴について改めて知見を深める事ができ、そして新たな熱心な仲間達と共に勉強できて本当に良かったです。これからも精進してまいります！



ムッシー

光永 浩

20年靴屋を営んでまいりましたが、お客様の足や靴に対する意識が年々高くなってきていることを感じます。

SNSの普及に伴い、お客様自身も様々な情報を簡単に得られるような時代になりましたが、シューフィッターとしてより的確なアドバイスができるよう、そして足に合った靴の重要性を一人でも多くの方に伝えていけるよう頑張ります！



中山靴店

山田 大観

中山靴店の山田大観です。
 マスターシューフィッターの講座が何十年ぶりに開催され、日本でも数十人しかいない権威あるマスターシューフィッターの一員になれることにこの上ない喜びと責任を感じております。
 講座を通して知り合った諸先輩方と切磋琢磨しながら、今まで培ってきた経験と技術、そして新しく3年間の講座で得た知識を元に、岡山の足や靴でお困りの方々に少しでも喜んでいただきたいという思いを持ち続けて、これからも目の前のお客様のQOL (Quality of Life)の向上の為、日々精進していきます。



沼津ワシントン靴店

山本 幸伸

マスターコースで実際に自分の足を計測し、ラストを自ら削り、試作靴を試し不具合を修正し、それらを経て足にとって快適なフィッティングがどのような感覚なのかを知りました。そして、その事により不特定多数に合わせた既製靴でのフィッティングに限界がある事も身をもって知る事ができました。
 この経験をこれからの店頭での適切な靴選びのアドバイスのひとつとして、お客様へのシューフィッティングに活かしていきたいと思っております。
 そして、私の憧れであり影響力のある優れた能力と意識の高い上級シューフィッターの方々に囲まれて素晴らしい環境と学びと気付きの3年間でした。
 このような貴重な機会を作っていただき、支え携わってくださった講師の先生や事務局等の方々に心より感謝いたします。ありがとうございます。



カインド

吉沢 秀明

第2回マスターコースのご案内をいただいた時には、私は70歳が目の前でした。自分を試す意味でも、又、将来後悔をしたくなかったので、受講する決断をしました。
 受講を決断した以上、お客様のお悩みを何とかできるようにしたいという思いがどんどん大きくなってきました。さまざまな講師の先生方に、あらゆる角度からのお教をいただくたびに、頭にあったことは、現場でどうやってお客様に還元することができるだろうかということばかりでした。又、受講生同志からの学びが多く、自分の甘さを自覚したことも事実です。マスターシューフィッターとは、靴選びでお困りのお客様に的確なアドバイスができることは当然ですが、シューフィッターの認知を高めること等の活動も続ける必要があると思っております。さらに、シューフィッターの見本になれるよう自分を高め続けなければならないと思っております。
 最後に、素晴らしい仲間と学ぶことができたのが、宝物です。皆さん本当にありがとうございました。
 「学びにゴールはありません。」まだまだ、道半ばです。



日進ゴム株式会社

渡辺 祐子

マスターコースを受講し、足と靴とそしてその関係性を学習する中で、興味の幅を広く深くすることができ、そして同期の方達のお客様と真摯に向き合う姿に教わることが多かったです。
 今後はこの機会に得られた貴重な体験と、マスターとしての自覚を持って、靴の生産にたずさわる者としては、手に取ってくださった方が購入して良かったと思われる靴造りの一助になれるよう。また、まだまだ靴に対してあまり興味を持たず、そのため足や身体を傷つけたり、保護者としてお子さんにとって良い靴を選べない方達もたくさんいます。そうした方達と積極的に関わって、分かりやすく、楽しく、靴を選んで履いてもらえるお手伝いができればと思っています。

技が光る靴製造現場を訪ねる

株式会社 矢口製靴

株式会社 インターナショナルシューズ

今回の補習講座は大阪の靴工場2社の見学です。西成区にある「株式会社 矢口製靴」と浪速区にある「株式会社 インターナショナルシューズ」です。

西成区も浪速区も大阪では皮革産業の街として広く知られています。通天閣のある新世界やあべのハルカスがある天王寺から至近です。

報告者 FHA 事務局長 木村 克敏

矢口製靴

JR 今宮駅に集合して最初の見学先「矢口製靴」へ徒歩で移動しました。

駅から歩いて7分ほどで到着、そのままショールームで代表取締役の矢口誠斗さんのお話を聞いた後、グループに分かれて見学に入りました。



まずはビルの4階「縫製場」、縫製マシン2種類とプラット製法用マシンが有ります。ここでは革の整理と革漉き機を使って革の準備をします。現在、靴の縫製は外注しているようで、縫製場では革小物を縫製していました。見学したときはAmazonで主力商品のオリジナルのペン立てを作っていました。デスクには試作品のスマホ立てがありました。



次に3階「材料置き場」「仕上げ作業場」、クリーピング、品番サイズ刻印、仕上げ、ブーツの時期では、1足1足クリーピングを行っているそうです。

アイコロソ（こて）や熱風機で仕上げを行ってきます。熱風機は水の入ったタンクがあり水分を含んだ熱風で革を傷めずに仕上げしていきます。

釣り込み、底付けを行った靴の最終仕上げ作業を行っています。

作業としては中敷き貼り、糊掃除、アイロン・熱風あて、アンコ・ストロー入れ、箱入れになります。

様々な革がストックされていますが、矢口製靴でメインだったラムは減りステアが増えているそうです。最近のステアはたいへん柔らかかで足馴染みもよく人気があるそうです。一方で昔ながらの顧客はラムにこだわる方も多くこちらも継続して生産されているそうです。



2階「釣り込」、「底付」、「ラスト置場」、職人さんが1足1足手作業で行っています。

最初にヒールトップに釘を打ってから釣り込みを始め、底付が終わったあと一晩寝かせてから釘を抜き、ラストを外します。

矢口製靴ではトーラスターやヒールラスターは使わずにすべて手作業で釣り込みを行っているそうです。先芯やカウンターは「とこだま」と呼ばれる粉碎された革（くず革）を固めたものを使用しているそうです。



1階「事務所」「裁断場」

革の裁断、裏材の裁断を行っています。

職人さんが1枚1枚の革の傷やシボを確認しながら丁寧に裁断しています。裁断に使う刃は両刃になっていて返すと左右が抜けるようになっています。



通常の工程は1階で革を裁断、4階で漉き、縫製、2階で底付け、3階で最終的な磨きなどの仕上げをします。この流れでワンロット完成に外注なども含めると約1ヶ月かかるそうです。全体的な流れや職人さんの作業などを見るとオーダーメイドシューズの量産型という印象を強く受けました。



株式会社 矢口製靴 代表取締役 矢口 誠司（誠斗）

〒557-0024 大阪市西成区出城 1-8-17

TEL：06-6633-8488 / FAX：06-6633-8249 / e-mail：yaguchi@zeus.eonet.ne.jp

西成区の下町で、高級素材を使い、技術の高い職人により、完成度の高い靴造りを地道に続けています。

消費者には、同じ靴を色違いで数足所有していただいたり、ありがたい事もあり、物造りに喜びを感じております。今後とも弊社の商品をよろしくお願いたします。

インターナショナルシューズ

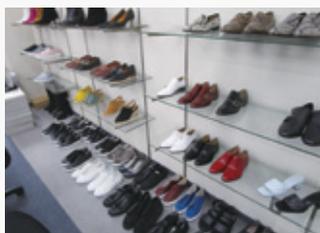
2 社目「インターナショナルシューズ」は矢口製靴から徒歩で7分ほどです。

こちらにも最初にショールームで専務取締役の上田誠一郎さんのお話を伺いました。上田さんは婦人靴の専門店「銀座かねまつ」に5年ほど勤務されていたという異色の経歴をお持ちで話し方や説明も大変わかりやすくよく

理解することができました。上田さんが入社するまではインターナショナルシューズでは100% OEM だったそうですが、現在は「brightway」というユニセックスのスニーカーブランドを立ち上げ、セレクトショップでの展開、百貨店でのポップアップや海外へも輸出しているそうです。

靴業界の話で興味深かったのはメンズ、レディース両方を扱っているメーカーは非常に珍しいとのことでした。また、生産に関してもほとんどのメーカーが外注をしていますがインターナショナルシューズでは一貫して社内生産をしているそうです。この点も非常に珍しいそうです。

見学に入る前に「ラスト設計」から靴づくりの流れについて説明を受けました。



ラストは「かがみ式」を採用していて、計測された足型の重要ポイントをデータ化して自社で設計をしているそうです。ラスト設計については海外の商品についても詳しく説明を頂き、続いて各工程の見学に入りました。

「裁断」は天然皮革と合成皮革ではその方法が違うそうです。合成皮革は3～4枚重ねたものを折りたたみ、一気に裁断していく「重ね抜き」という方法をとるそうです。

材料についても実際の皮革を見せながら詳しく説明を頂きました。



「裁断」が終わると「革漉き」「アッパーの縫製」の工程に入ります。



「底付け」はまずアッパーに芯材を入れ、釣り込み、底付けしていきます。



「トーラスター」でつま先を釣り込みます。この機械は50年前のものですが当時1800万円したそうです。トーラスターにかけた後は「本釣り」といって手作業での釣り込みになります。次にかかと部分を「ヒールラスター」で釣り込みます。そして最後に底付けしやすいように「パフ」をします。

真空圧着機で底付けを行い、機械でラストから靴を抜きます。



最後に「仕上げ」「検品」を行います。

靴に水分を含んだ180～200℃の熱風をあて、アイロン（こて）を使って仕上げています。



最後に検品を行い、箱入れをして出荷となります。

時間の関係上、全工程を見ることはできませんでしたが、多くの工程を見学することができました。



株式会社 インターナショナルシューズ

専務取締役 上田 誠一郎

〒556-0014 大阪市浪速区大国 1-11-20

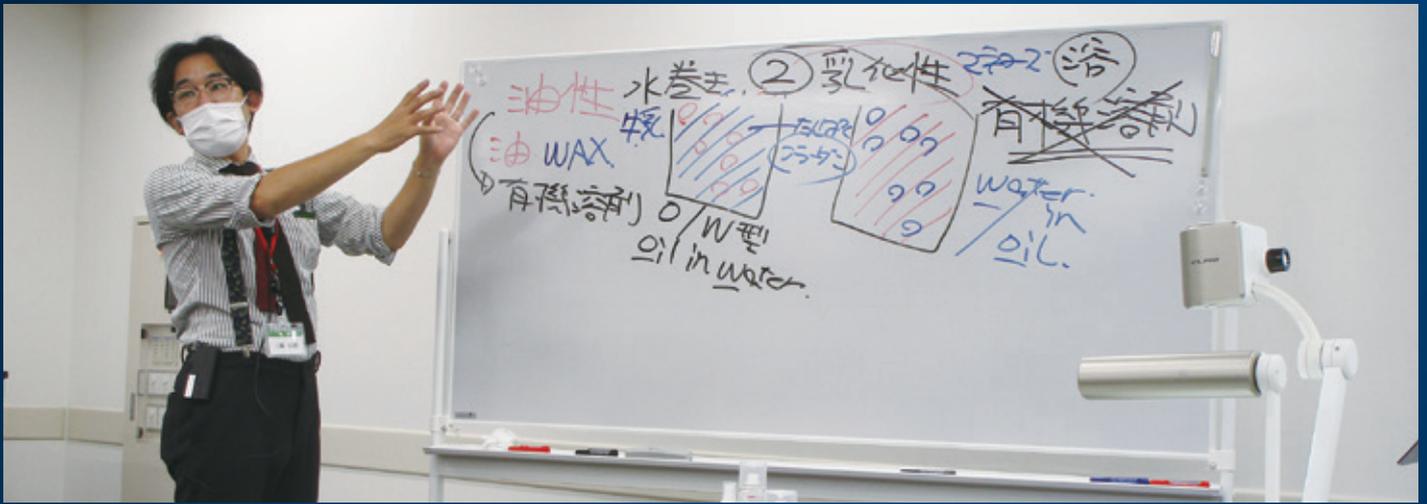
TEL : 06-6641-2714 / FAX : 06-6643-4688 / e-mail : info@inter-shoes.com

弊社は浪速区で60年以上の歴史を持つ老舗婦人靴メーカーです。

創業以来、今もこうして靴づくりに励めるのは長年の顧客様、私たちの靴づくりを支えてくださるサプライヤーの方々、そして一緒に頑張る仲間が存在があってこそだと強く感じております。

靴づくりはバトンリレー。そして靴は世界最小の建築物だと思います。1足が生まれるまでに本当に多くの方が関わり、想いや情熱が詰まった各パーツをひとつのマスターピースにするのが私たち靴メーカーです。

浪速の夢と情熱を込めた1足をこれからもお届けしてまいります



SFC 東日本支部補習講座 2021年9月29日(水) 東京・両国 国際ファッションセンター (KFC)

ワンランク上のシューケアテクニック

講師：三橋 弘明 先生

株式会社コロンプス カラリスト

株式会社コロンプスの三橋弘明先生をお招きして「ワンランク上のシューケアテクニック」と題した講演&実演を行いました。三橋先生は当会のバッチラーコースで「革靴のお手入れ」を担当していただいております。深い知識に基づいたご講義は毎年、受講生からたいへん好評です。今回はその三橋先生にシューフィッターとして知っておくべきレベルの高いシューケアテクニックについてご講演いただきました。三橋先生のお話はたいへん内容が濃く深いですが、論理的で非常に分かりやすく、私たちのシューケアをワンランク上にアップしてくれます。ぜひ、最後までご覧ください！

報告者：SFC 東日本支部長 武田 剛

1. シューケアについて

●革の種類

革は大きく分けて3種類に分けられる。

1つは銀付きの革、銀面のある革で毛穴が残っている革。2つ目がガラスレザーやエナメルなどのように主に革の表面に加工を施している革。そして3つ目が起毛革、スウェードやヌバックのように革の表面を起毛している革。お手入れの方法もそれぞれの革に適したものがある。どの革にどのようなお手入れをするのが良いか整理して頂ければと思います。お店でシューケアの話を伺うと、一番気にされることがシミにならないかということ。お客様自身がケアしてお気に入りの靴にシミができたりしたら困るので、できるだけシューケアをせずに履かれて

いるということもある。そうしたことで靴についた汚れやシミへの対処が手遅れになるということもある。今回の講義を聞いて、不安無くお手入れできるようになっていただければと思います。

●革の話

先ずはお手入れする革について知っていただきたいことがある。革は表皮層、銀面層、網状層からなっていて繊維が絡み合っていて出来ている。革は繊維製品なので毛細管現象という水分を吸い込む性質がある。シューケアはその性質を利用して行う。シューケア用品には瓶に入ったクリームや液状のリキッドタイプのクリームなどがあるが、そういったものがどのように革に作用を及ぼすのかを説明します。

2. 靴クリームについて

靴クリームの成分は水と油、ワックスそして有機溶剤で、これら全てが効果を引き出すために必要なものとなる。そもそも革が動物として生きていた時は、のどが渴けば水を飲み、お腹が空けば葉っぱを食べたりして生きていた。革は死んでいるので自ら水分や油分を摂取できない。だからクリームの中に水分と油分とワックスを入れている。革は複雑に絡み合う繊維できている。その絡み合う繊維をまとめているのが油分になる。また、革の表面はポコポコと凹んでいる状態。このくぼみはもともと体毛が生えていた毛穴で、その下に銀面層と網状層の2層がある。その下は床革と呼ばれ荒い繊維できいた層となる。床革のように血管や筋肉に近いほど繊維は粗く緩く絡み合う、そして表面に近いほど繊維はきめ細かく硬く絡み合う状態になっている。銀面は繊維が密に硬く絡み合った状態で伸縮しにくい。一方で緩く絡まっている網状層は伸びやすい。これらの繊維にゆとりを持たせながら束ねているのが油の役割になる。革の中に油を入れることで水分の蒸発を防ぎ柔軟性を保つことができる。また、水と油が入っていることでクリームを塗ると毛穴が広がり、クリームの成分を革の奥まで浸透させることができる。そして必要な水と油を革に充填することで革の状態を整えていく。本来交じり合わない水と油を混ぜ合わせているクリームのことを乳化性クリームといい、革の状態を整えてくれる。また、水と油を混ぜたものを塗り伸ばしやすくするためにワックス、ロウが加えられ粘度調節が行われる。また、ワックスは固形なので革の中には浸透せず、革の表面に残る。そこでブラッシングをすると余分なワックスが取り除かれて光沢が出てくる。ワックスは粘度調節と光沢を出すために加えられている。

●有機溶剤が入ったクリームの注意点

有機溶剤は溶かすものなので革に付けられた色も一緒に溶かしてしまう。なので、バッグや革小物に使うと、洋服などに革の色が移ってしまう可能性があるので注意が必要。革小物用には有機溶剤の入っていないものを使うと安心してケアできる。

靴クリームには大きく2つの種類があり、一つが乳化性クリームで、もう一つは油性クリームになる。これらの違いは成分の違いとなり乳化性クリームは50～60%が水となり、40～50%が油となる。乳化性も2

種類があり、一つがO/W形でもう一つがW/O型である。O/W型はオイル・イン・ウォーターという意味で、水の中に油やワックスを入れて作るクリームで水巻クリームという。また、W/O型はウォーター・イン・オイルという意味で、油の中にワックスや水を加えてつくるクリームで油巻クリームという。弊社では水にコラーゲンを入れている。靴の屈曲部分などは革の繊維が緩んでくる。革の繊維が緩んだところで擦れあうと摩擦熱が発生してしまい、その熱によってコラーゲンが抜けていってしまう。その抜けたコラーゲンを充填する必要があるので水にコラーゲンを混ぜ込んでいる。水巻と油巻の見分け方は、手の甲にクリームを取り、水を流した時、流れ落ちるのが水巻であり、手に残りなかなか取れない場合は油巻となる。なぜ水巻と油巻の2種類用意しているかというと、綺麗にお手入れされた靴ならば水巻クリームで十分であるが、長年、手入れをしていない靴は、表面の油分が無くなり、それまで束ねていた革の繊維が束ねられなくなり、ひび割れやパサパサな状態になってしまう。そうなれば油巻クリーナーを使って油分を十分に与えていかなければならない。手入れを頻繁にしているものには水分補給をメインとした水巻タイプを、ほとんどお手入れをしておらずひび割れや、パサパサした状態の革には油分をしっかりと充填できる油巻タイプを使うといい。なお油巻クリームは有機溶剤を使用しないと作れないので革小物などのお手入れには注意が必要。デリケートクリームは90%が水でできていて有機溶剤を使用していないので淡い色のものや革小物などにも安心して使ってもらえる。しかし水分が多く油分やワックスがほとんど入っていないため光沢は出ない。

3. シューケアに関して

ここ5年くらい靴磨きが流行っていて、靴磨き選手権なども行われている。爪先革に顔が映るほど磨くような、綺麗に見せるのが流行っている。このように爪先を輝かせるのはシューシャインという。そういったシューシャインの話をする前に革の状態を保つシューケアを理解する必要がある。

シューケアは大きく分けて5つの工程がある。1つ目がブラッシング、2つ目がクリーナー、3つ目がクリーム、4つ目がブラッシング、5つ目が乾拭きである。

一つ目のブラッシングは単純にブラシで靴をブラッシングするだけ。ブラッシングについてお伝えするのはプ

ラシの種類について。数多くの種類があるが、大きく分けると、馬毛と豚毛である。また、毛の植え付けのピッチがベースの木材が見えないくらい密集させているもの、そしてもう一つはベースの木材が見える程度に隙間があるものである。これらにはそれぞれ役割があり、毛が密集して植え付けられているブラシは埃取りに適したブラシである。埃は固形物であり、靴の表面に乗っかっているものだ。その埃を除去する役割となる。取り方は、普通に毛を靴にあてブラッシングするだけで良い。紳士靴ではコバといってソールとアッパーの境目の部分や、メダリオンの穴などに埃が溜まりやすいのでブラシのエッジの部分でしっかりと埃を掻き出していく必要がある。ここでの注意点は強く擦るようにブラッシングすると逆にコバの隙間などに埃を押し込んでしまうことになる。あくまで、ブラシで掻き出すようにする。ブラッシングで革が傷ついたり痛んだりすることは無いのでしっかりとやっていただきたい。海外ではブラッシングがお手入れの7割を占めるといわれている。

ここで革の乾燥について話をしたい。雨の日に革靴を履くと革が水分を吸収してしまう。そしてその水分が革の中にあつた油分を革の中から押し出してしまふ。その状態で水分が蒸発してしまうと革の油分が抜けた状態になってしまう。また、地面には汚れや埃がたくさんあり、それが雨の跳ね返りに交じって靴の表面に付着する。そうすると、靴の表面に付着した汚れや埃が革から水分や油分を吸い取ってしまうという現象が起きる。その結果、革が乾燥した状態になってしまう。それを防ぐためにも、ブラッシングをこまめに行い靴の表面に付着した汚れや埃を取り除かなければいけない。それによって革の乾燥を低減させることができる。すなわち、ブラッシングには革の乾燥を防ぐという役割がある。埃を取るには毛が密に植えられているブラシがお勧めである。密に埋まっているものは革の表面を優しく撫でるような動きになる。毛の種類で言うと、馬毛は繊維が縦に走っており表面を撫でるように動いてくれる。一方で豚毛はくるくるとしたキューティクル構造となっており、埃を取り込み

やすい。埃を掻き出したり払ったりするには繊維が縦に走っている馬毛のブラシをお勧めする。このようにまず一番初めのブラッシングは、毛が密に植えられているブラシで埃を綺麗に除去し乾燥を防ぐ。

続いてがクリーナーで、このステップがお手入れの中でも一番厄介でやりたくない工程である。クリーナーは汚れ落としで大きく分けて3種類ある。一つは液体状のもの、もう一つがクリーム状のもの、そして最後が固形で生ゴムや合成ゴム、砂消しゴム等である。このようなゴム系のは起毛革に使うものだと多くの方が思っているが、普通の銀付きの革やヌメ革などにも有効である。

クリーナーは革の汚れを取るものだが、「汚れを動かす」というのが弊社の考え方になる。クリーナーの中には非常に強いものもあって汚れを溶かすものもある。汚れやシミを溶かす場合、残念ながら取り除きたい汚れやシミだけを溶かすことは出来ない。必ず取り除きたい汚れやシミの下には色があり、その色まで一緒に溶かしてしまう。汚れを溶かすようなクリーナーを使うと、そのクリーナーを付けた部分だけ色が抜けてしまうことがある。

そこで弊社としては汚れを溶かすのではなく動かして取り除いている。それでは汚れを動かすとはいったいどういう意味か。液体のクリーナーを布にとって革の表面に塗布する。革の表面はデコボコしており、そのくぼみ、毛穴の部分に古いワックスが残っている状態である。その古いワックスを取り除かないと毛穴から水分や油分を吸収することができなくなってしまう。液体のクリーナーには水分が多く入っているので、革の表面に塗布すると革の目に沿って毛穴の中までクリーナーが入っていくことができる。そうすることで毛穴を塞いでいたワックスを浮き上がらせることができる。液体クリーナーを使うと毛穴を広げることができ汚れや古いワックスを浮き上がらせる。それに加え液体クリーナーの中に界面活性剤が入っており、それが浮き上がった汚れなどを包み込み取り除きやすくしてくれる。つまり、汚れを動かしやすくなるということである。液体クリーナーの使い方は簡単で布に液体クリーナーを含ませ、靴に指を置いただけの強さぐらいで軽く拭くだけで良い。決して強く擦る必要はない。液体クリーナーは水性の汚れと油性の汚れの2つに効果のある成分が含まれているので、水性、油性の汚れを気にすることなく汚れを布に吸い取らせる効果が期待できる。

液体クリーナーを使用する際には、やはりシミになるというのが一番気になるところだ。靴にもシミになりやすい場所と、シミになりにくい場所がある。シミになり



にくい場所が爪先や踵といったカウンターなどいくつかのパーツが重なっているところだ。液体クリーナーを使用する際はこのようなシミになりにくいところから使い始めるのが良い。屈曲部分などは汚れが溜まりやすく、手入れを入念にしたい。しかし、屈曲部分は屈曲することで素材自体の繊維が緩んでおり液体を吸収する力が強い為、必要以上に吸収してしまう可能性が高い。その結果、シミになることもあるので注意が必要だ。やはりクリーナーを使う際は爪先か踵の目立たないところから始めていただきたい。もう一つ注意することが、決して強く擦らないということである。液体クリーナーを使用すると毛穴に水分が吸収されていく。毛穴に水分が吸収されると革の繊維は緩んでしまう。革の繊維が緩むと革は痛みやすい状態になってしまう。その毛穴が開いた状態で強く擦ると、その部分に摩擦熱が発生してしまう。濡れた状態で熱を加えると毛穴が広がった状態、繊維が緩んだ状態のまま、元に戻れない状態になってしまう。そうすると、毛穴が開いた状態になるので、いくらワックスを使ってお手入れをしようとしても、毛穴にワックスが残ってくれず、表面に光沢を出すことができなくなってしまふ。つまり光沢の無い革になってしまい、革自体も痛む。液体クリーナーを使うときには、必ず革は濡れるので、決して強く擦らないこと、摩擦熱を発生させないことが重要。また、濡れた状態でクリームを使っても光沢は出ないことも覚えておくこと。それでもやはり液体は怖いという方にはクリーム状のチューブタイプがある。このクリームの中にはマイクロビーズとって極小の粒子が入っている。この小さい粒子が革についた汚れに入り込んで汚れを削り取る。さらに、このマイクロビーズが革の表面をコーティングすることで光沢が出る。汚れを取りつつ光沢を出すのがクリーム状のクリーナーの特徴になる。液体タイプのもとは違い、毛穴を広げないので革を痛めることがない。革を痛めるのは毛穴が動いたときに起こるので、そういった意味では安心して使ってもらえる。ただ、毛穴を広げる効果は無いのであくまで浅いところにある汚れを取り除くものとなる。革の奥までクリーナーが届かないのがデメリットである。クリーム状のものでも革に浸透するのでヌメ革などでは心配だという方もいる。さらに安心して使えるクリーナーとして固形タイプがあり、ゴムクリーナーをお勧めしている。ゴムクリーナーは大きく分けると合成ゴム、生ゴム、砂消しの3種類ある。汚れを落とす効果としては合成ゴムが一番弱く、次が生ゴム、そして一番強いのが砂消し

となる。なぜゴムがクリーナーになるのか。ゴムには油を吸着する力がある。生ゴムは天然ゴムで、合成ゴムは樹脂とゴムが交じり合ったものになる。したがって吸着力は生ゴムの半分くらいになる。逆に力が弱いので淡い色のものや、高級な革などには力の弱い合成ゴムで汚れにアプローチするのも一つの方法だ。合成ゴムで取れなければ生ゴムに変えてアプローチしてみるのも有効な手段。ゴム系のクリーナーが有効なのは起毛革や銀付き革であり、箔押しやパール加工の革には使うことができないので注意が必要。このゴム系を使用するときは、鉛筆で書いたものを消すようにゴシゴシと擦る必要はない。ゴムの端を持ってそのゴムの重さの圧で軽く擦るくらいでOK。強く押し当ててゴシゴシ擦ると毛穴が動いて革を痛めてしまう。ゴムの重みだけで十分なので、その圧で擦ればいい。それでも汚れが取れなければ少し力を加えてみると良い。最後に砂消しは番手の細かい紙やすりだと思ってもらったほうが良い。砂消しで有効なのは白革のスニーカーなどである。白革は厚く顔料を乗せているものが多く、その隙間に汚れが入り込むが、その汚れを削って取ることができる。逆に革の表面を削ることになるので、砂消しを使える革は限られる。スウェードやヌバックなどの起毛革は使用することができる。あくまで紙やすりだという認識をして欲しい。

固形クリーナーは固形なのでシミを作ることはない。あくまで革の上に乗っかっているものを動かすだけだ。液体タイプやクリームタイプ、固形タイプを上手く使い分けるのが一番いい。例えば、汚れがあるが液体のクリーナーを使うとシミになりそうなとき、固形タイプの生ゴムで軽く擦って汚れを薄くしてから液体タイプのクリーナーを使うとリスクが軽減される。液体クリーナーで拭いたあと、まだ汚れが残っていれば、乾いた後に再び固形クリーナーで擦ってみる。そしてまた液体クリーナーで拭くということを繰り返してもらいたい。一度、液体クリーナーで拭くことで奥にあった汚れを表面に浮き出すことができる。そうすると固形クリーナーで除去することが可能となり、一回目よりきれいな仕上がりとなる。このように一つのタイプのクリーナーでお手入れするのではなく、数種類のを組み合わせることで大きな効果を生むことがある。

4. クリームについて

クリームには革を柔らかくする効果と、光沢を出す効

果、そして補色効果の3つがある。クリームを塗る方法は4つある。一つは布を指に巻き付けて塗るパターン、2つ目がブラシを使って塗るパターン、3つ目が指で塗るパターン、4つ目がスポンジを使って塗るパターン。それぞれにメリットとデメリットがある。布で塗るメリットは、布も繊維製品なので指に巻き付けてクリームを取ると布にクリームが浸透し均一にクリームを塗り延ばすことができる。デメリットは摩擦熱が発生することである。布は面で革に接するので摩擦熱が発生しやすい。指に巻いて擦るとかなり熱くなってしまふ。だから、布でクリームを塗るときは強く擦らず軽く拭くようにするのが重要。次にブラシのメリットは、まず手が汚れない。そして、メダリオンやコバなどの細かい箇所も塗りやすい。そしてなにより一番のメリットは摩擦熱が出ないことである。ブラシは布と違って毛先の点で革と接するので熱が発生しにくい。デメリットは布ならばクリームを吸い取ってくれるのだがブラシにはクリームを吸い取る場所が無い。なので、ブラシにとったクリームの量がそのまま革の表面に乗ってしまふ。量の調整が非常に難しい。ブラシでクリームを取った後、ビンの蓋や作業台の端などでクリームを軽く落としてから使用すると良い。また、ブラシでクリームを取ってから長い時間放置しているとワックスで毛が固まってしまう。この固まったブラシで靴を磨くと革に傷が付いてしまふので要注意。クリームを塗るのにブラシを使ったら、使用後に湯煎して洗っておくなど綺麗にしておかなければならない。また、梅雨時などは毛先に残ったクリームにカビが生えてしまふこともあるので清潔にしておくことは重要だ。次に指で塗る際のメリットとデメリット。メリットは革に塗るクリームの量の調節が非常に楽だということ。また、一番薄く塗ることができる。クリームは薄く塗った方が良い。厚く塗ると表面にワックスが何層にも残ってしまふ、結果デコボコとした表面になり光沢が出なくなる。薄く塗らないとつるつとした表面にならない。その意味では指で塗るのが一番いい。デメリットは有機溶剤などで手が荒れる。また手が汚れるのも販売の現場などでは大きなデメリットで、靴箱などを汚してしまふ可能性がある。最後にスポンジのメリットとデメリット。メリットは大きな面積でも均一にクリームを塗ることができる。ブーツの筒部分などは指で均一に塗るのは難しいが、スポンジを使えば短時間でかつ均一にクリームを塗ることができる。一方でデメリットとしては見た目がカッコ悪いことが一番だ。

クリームで補色したいが色が入らないという経験がある方も多いと思う。これは、クリームに入っている有機溶剤のいたずら。有機溶剤が元の色も溶かしてしまうことに加え、強く擦ってしまふ摩擦熱が発生した時によく見られる現象。この問題を解決するには強く擦らないこと、摩擦熱を発生させないことが重要。摩擦熱が起こりにくいブラシで磨くのが良い。クリームは薄く塗るのが良いのだが、では、どのくらいの量が目安か。紳士靴ならコーヒード豆1粒くらい。婦人靴なら米粒3つくらいが目安となる。クリームもクリーナーと同じく、爪先や踵などからハンドクリームを塗るように塗り広げていってもらえればいい。

続いてブラッシングになる。ブラッシングは豚毛をお勧めしている。そして隙間のあるブラシ、つまりベースの木材が見えるくらいの間隔で毛が植えられているブラシが良い。ブラッシングはアッパーに付いている余分なクリームを取り除くためのもの。余分なクリームが残っているとそのクリームが汚れなどを引き寄せてしまふ。革に必要な水分や油分はクリームを塗った瞬間に革に吸収されているので、後に残っているクリームは全て余分なクリーム。取り除いても大丈夫。ブラシのかけ方は毛先だけを動かしてブラッシングするような感じ。豚毛の間隔が広いものを勧める理由は、毛先が自由にバラバラと動けるからだ。毛と毛の植える幅が密なブラシだと余分なクリームを取り除こうとしても塗り広げるだけになってしまう。間隔のあいたブラシを使うと、はじき飛ばすような動きになり余分なクリームを取り除くことができる。また、豚毛にも意味がある。豚毛はクルクルとしたキューティクル構造になっている。その為、毛がクリームを取り除いてくれる効果がある。お客様から「靴を毎日磨いている」と聞くことがあるが、基本的には月に2回程度で十分。同じブラシを使い続けると毛先にクリームが付着していく。そうすると、何も付けずにブラッシングするだけでもブラシに残ったワックスだけで光沢が出てくるようになる。玄関には埃取り用のブラシと、お手入れ用のブラシの2種類を置いてもらおうと良い。外から家に帰ってきたときに埃取り用のブラシでブラッシングし、朝出かけるときに靴に光沢が足りないと感じれば、お手入れ用のブラシでささっとブラッシングすれば光沢が出る。毎日のお手入れはこの2つで充分である。またお手入れ用のブラシは使い込めば込むほど毛先にワックスが浸透し、ブラッシングするだけで綺麗に光沢が出るようになる。長年かけてブラシを使い育ててい

くことを楽しんで欲しい。そして最後5番目が乾拭きで、靴に残ったクリームを布で軽く乾拭きすれば完成となる。

5. スウェードのお手入れ

スウェードは起毛革といって毛が起きている状態。革の銀面を紙やすりで削って毛穴を無くして毛羽立たせているのがヌバック。ヌバックの方が毛が細かく見えるのは、革は奥に行くほど繊維は粗く表面に近いほど繊維が細かい特徴がある。だから銀面を毛羽立たせているヌバックは細かい毛になる。ヌバックとスウェードは革の銀面を使っているか肉面を使っているかの違いとなる。日本では起毛革は冬の素材というイメージが強い。しかしヨーロッパなどでは夏の素材として有名。スウェードやヌバックは銀面が無いので通気性が非常に高くジメジメしたシーズンに最適な素材である。起毛革には水を弾く特性があり、突然の雨でも銀付き革より強い。ただ、一般的にはケアが難しいというイメージがある。起毛革は傷が付いたり、毛がバサバサになったりする。しかしこれらは実は傷ではない。傷に見えるのは毛が寝ているだけ。ワイヤーブラシなどを使って毛を起こしてあげると傷のような跡は消えて無くなる。ブラッシングだけで十分な素材である。バサバサになってきたときは、油分が足りなくなっている。しかし銀付き革のようにクリームを塗るわけにはいかない。もし、起毛革にクリームを塗ってしまうともう二度と毛は起きてこなくなり、起毛革の風合いは復活しなくなる。スウェードやヌバックに油分を補充するには専用のミストを使う。また汚れが目立ってきた場合には固形タイプであるゴム系クリーナーを使用する。スウェードなどにつく汚れには2種類あり、毛の表面につく汚れと中につく汚れである。表面の汚れはゴム系クリーナーで落とすことができる。一方で中の汚れはゴム系クリーナーでは取ることができない。そのような時には、スウェード用クリーナーを使う。これはナイロンパウダーを使用したもので汚れやシミのある所に直接吹きかけ拭きとる。スウェード用クリーナーを革の表面近くで使用するのはNG。防水スプレーも同じだが20cmくらいは離れたところから軽く吹きかけるように使用すること。近くから吹き付けるとシミになることがあるので注意が必要。またヌバック用のクリーナーを塗布する場合、廊下やタイルの上で塗布しないように注意すること。油が入っており、非常に滑りやすくなってしまふ。これらのクリーナーに関しては革が

軽く湿める程度に吹きかけて5分から10分程度おく。この時間で毛の下までクリーナーが浸透し油分や水分を革に充填することになる。そしてブラッシングして汚れをはじき飛ばし、毛を起こせば綺麗に甦る。そして最後に防水スプレーをかけると汚れも防げるし、撥水効果も高くなる。スウェード素材はシミや傷などの手入れが大変というイメージがあるがむしろ逆に傷やシミに強い素材である。一方でエナメルやガラスレザーは傷やシミになりやすいが一旦、傷やシミができてしまうと基本的には治すことができない厄介な素材である。

6. 防水スプレーの使用方法

防水スプレーの主な成分はフッ素で革の表面に産毛のようなものを作っている状態。使用しなければ防水効果は非常に長く続くが、フッ素のコーティングは摩擦に弱い。したがって毎日履くと1週間程度しかもたない。防水スプレーを吹きかけるときは、20cmほど離して軽く湿る程度に吹きかける。そして30分くらい乾かす。乾いて初めて防水効果を発揮する。また、一度吹きかけ乾かしたものに、もう一度吹きかけ乾かすといった2度塗りすれば効果は2倍以上になる。

今回はカラリストとしての基本的な話をしました。ぜひ正しい知識を知って安心してシューケアを実践してほしいと思います。

7. 最後に

三橋先生にワンランク上のシューケアの話を伺い、お手入れすることの重要性を再認識すると共に、たくさんの新しい気付きを得ることができました。クリーナーの種類や使い分け方、ブラッシングの重要性やブラシの種類による違い、またクリームの正しい使い方など、今すぐに役立つことばかりでした。今回の講義を聞いて、私たちシューフィッターも今まで以上に安心してお客様にシューケアをお勧めすることができ、楽しんでいただける事を願っています。



三橋 弘明
(みつはしひろあき)
株式会社コロンプス
企画部
カラリスト

第13回幼児子ども専門コース認定者一覧(2022年1月1日認定)



| 氏名 | 会社名 |
|-------|----------------------|
| 茂木 智仁 | 株式会社サンドリームファクトリー |
| 河村 樹 | 株式会社ブロックトナリエつくばキュート店 |
| 茂木 有紀 | とちぎフットケアサロン |
| 紺野 大地 | 株式会社ブロック 幕張新都心店 |
| 小川 知夏 | 株式会社新潟三越伊勢丹 |

| 氏名 | 会社名 |
|-------|-------------------------|
| 尾崎 恭子 | 有限会社フィセル |
| 中澤 千恵 | 株式会社東急百貨店 ShinQs |
| 織田 順子 | 福祉用具セレクトショップりんりん |
| 森本 睦 | 株式会社天満屋 福山店 |
| 寺西 愛猶 | 株式会社オリビックシューズフォレスト武蔵浦和店 |

| 氏名 | 会社名 |
|--------|-------------------|
| 岡本 茂樹 | 株式会社明販広島東 |
| 米本 愛子 | 株式会社名鉄百貨店 |
| 長村 郁美 | 有限会社フィセル |
| 中村 奈穂子 | 株式会社オートフィッツ |
| 山下 ちどり | 株式会社そごう・西武 そごう横浜店 |

(15名認定)

(受講者の声) インターネットで調べればありとあらゆる情報が得られ、靴もオンラインなどで簡単に手に入る現代社会の中で、お店に足を運び、シューフィッシングを希望されるお客様からのご要望や期待は年々高まっていると感じています。しかし、その一方で子供靴に関しては、すぐに足が成長するから…とあて大きめの靴を購入しているといったお客様も数多くいらっしゃいます。お客様の知識や靴に対する意識は様々ですが、接客する上でお客様に誤った情報(知識)の提供や情報過多による混乱が生じないように、個人個人のニーズに合わせた適切なお提案をしていきたいと思っております。そのためにも、幼児子ども専門コースに参加し専門知識をもった講師のお話を直に聞き、質問ができたことは私にとって大変貴重な経験となりました。株式会社ブロック トナリエつくばキュート店 河村 樹

第11回シニア専門コースがリニューアル! ～実習を加えてより実践的な講座に変わります～

日程: 2022年11月8日(火)、9日(水)
会場: 東京・両国 国際ファッションセンター
受講料: 66,000円(税別)

今回大幅なテキスト改訂とカリキュラムの変更を行いました。また、毎回好評の高齢者疑似体験実習に加え、シニアモデルによるフィッシング実習を行います。高齢者のたいへんさを実感できる疑似体験とモデルによるシューフィッシング実習により、フィッシングに対する理解を更に深め、技術の向上をはかります。皆様のお講をお待ちしております!



第22回バチエラ(上級)コース申込み受付中

日程: 2022年7月～2023年3月
スクーリング3日間×3回

- ・7月13日(水)～15日(金)
- ・11月16日(水)～18日(金)
- ・2023年3月15日(水)～17日(金)

会場: 東京・両国 国際ファッションセンター
受講料: 260,000円(税別)

第14回幼児子ども専門コース申込み受付中

日程: 2022年12月8日(木)、9日(金)
会場: 東京・両国 国際ファッションセンター
受講料: 66,000円(税別)

補習講座についてのお知らせ

コロナ禍により2021度のSFC会費は免除いたしました。補習講座は例年通り東西各3回、年間6回の開催をいたしました。今後、SFC部会ではライブやオンデマンドなどオンラインでの補習講座開催の仕組みづくりを検討してまいります。つきましては2022年度の補習講座は東西で各2回、年間4回の開催とさせていただきます。東日本支部が6月、12月、西日本支部が9月、2月を予定しております。

補習講座のご案内は東西支部別にハガキをお送りしていましたが、今年度はすべての講座案内をお送りいたします。また、講座の詳細につきましては、当会ホームページ、フェイスブックへも掲載予定です。皆様のご参加をお待ちいたします。

SFC部会では引き続き会員皆様へのサービス向上を念頭に活動してまいりますのでご理解の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

SFC部会一同

※日程は変更になる場合がございます。

※シューフィッター検索に掲載しているご登録内容をご確認ください。
シューフィッター検索(<http://fha.gr.jp/search> [左記QRコード])
の絞り込み検索欄にお名前をご入力いただくと検索ができます。
掲載内容に変更がある場合や掲載を希望される場合は、事務局までメール又はFAXでお知らせください。



※勤務先や自宅住所等を変更した時は必ず事務局までご連絡ください。
連絡が無い場合はトレデュニオンや補習講座、資格更新の案内等をお届けできない場合があります。

ホームページ FHA/SFC 会員専用パスワード: kmhs7646

○・・・トレデュニオン・・・○

“トレデュニオン”は、フランス語です。英語ではHyphen(ハイフン)にあたります。FHA事業理念のもとにFHA会員、SF、SFC会員の相互を密接に結ぶ情報誌という意味で命名しました。

No.69(通算104号) 2022年4月1日発行
〈編集・発行〉一般社団法人足と靴と健康協議会
〒111-0032 東京都台東区浅草7-1-9
Tel. (03) 3874-7646 Fax. (03) 3875-0880
Email fha@tokyo.email.ne.jp URL <http://www.fha.gr.jp/>
禁・転載複製

表紙デザイン: 株式会社ジャルフィック 池田 正晴